

2026年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2026年5月8日

上場会社名 株式会社エーワン精密 上場取引所 東
 コード番号 6156 URL <https://www.a-one-seimitsu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部門統括 (氏名) 松本 亜紀子 (TEL) 042-363-1039
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年6月期第3四半期の業績 (2025年7月1日~2026年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年6月期第3四半期	1,196	1.3	120	165.0	152	124.5	104	144.8
2025年6月期第3四半期	1,181	△1.3	45	△66.7	67	△53.2	42	△56.8
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2026年6月期第3四半期	20.80		—					
2025年6月期第3四半期	8.52		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年6月期第3四半期	7,874	7,212	91.6
2025年6月期	8,058	7,485	92.9

(参考) 自己資本 2026年6月期第3四半期 7,212百万円 2025年6月期 7,485百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年6月期	—	0.00	—	100.00	100.00
2026年6月期	—	0.00	—		
2026年6月期(予想)				100.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年6月期の業績予想 (2025年7月1日~2026年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,700	6.9	298	252.0	320	167.2	220	—	43.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年6月期3Q	5,300,000株	2025年6月期	5,300,000株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2026年6月期3Q	261,774株	2025年6月期	279,772株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2026年6月期3Q	5,030,410株	2025年6月期3Q	5,018,474株
------------	------------	------------	------------

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(収益認識関係)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期会計期間におけるわが国経済は、個人消費や設備投資が底堅く全体として堅調に推移しましたが、イラン情勢の急変により経済に悪影響が出始めてきました。

2月末に起こった米国とイスラエルによるイラン攻撃、それに対するイランの応酬、ホルムズ海峡封鎖などにより、石油輸入国は調達難に陥り価格上昇や関連商品においても調達が難しくなるものが出てきています。ただ一時的に混乱は起きていますが、いまのところ世界経済の大きな落ち込みには至っていません。そのほか海外の紛争によるエネルギー価格・食料価格の上昇や米国による高関税問題による物価上昇もありましたが、日本国内では食料品価格は徐々に落ち着いて、原油価格も政府の対応により高騰は抑制され、株式市場も乱高下しましたが結局高値に戻ってきました。国内個人消費は、賃上げによる所得効果と株式市場が高水準を維持したことによる資産効果などで堅調に推移しました。国内企業の設備投資は、システム投資を中心に自動化や省力化などで一定量動きがありました。

国内製造業は、需要に濃淡があり全体としては上がり下がりを繰り返してきました。工作機械分野は、中国を中心に半導体製造装置や検査装置部品加工が旺盛で、精密微細加工用の機械の新規購入が増加しました。自動車産業では、電気自動車が伸び悩みハイブリッド車をはじめガソリンエンジン車は堅調でしたが全体としては微減となりました。医療分野などは堅調な動きでしたが、イランでの戦闘により原油輸入がストップ状態となり、プラスチックや化学メーカー、油メーカーなどの生産に影響が出てきています。

このような状況のなかコレットチャック部門では、半導体製造装置・検査用の部品、関税問題が落ち着いてきた自動車、海外輸出にけん引された工作機械などが動き、医療部品も安定した動きをしました。1月の立ち上がりはゆっくりで、2月から年度末の3月にかけて受注は増加傾向となりました。特に中国で半導体を増産していて検査用プローブ部品加工用のコレットチャック受注が増加しました。国内はこれまで一進一退の動きでコレットチャックの受注も単品が多く、多品種少量の受注が中心で売上は微減となりました。部門全体としては前年同期に比べて微増となりました。

この結果、当セグメントの第3四半期累計期間の売上高は826,893千円（前年同期比0.5%増）、セグメント利益は305,407千円（前年同期比1.8%増）となりました。

切削工具部門では、1月は緩やかな動きとなりましたが、2月は多少動きが出て、3月は年度末に向けての仕事が出て、当社の受注も増加しました。四半期を通じては微増となりました。

別注切削工具の製作・再研磨は、加工する形状に合わせて工具を成形するものであり、3月は国内製造業にまとまった加工が出て、当社の受注も増加しました。売上高は118,845千円（前年同期比8.3%増）となりました。

市販切削工具の再研磨は、様々な業種の切削加工で使用されている工具の再研磨ですが、市販超硬切削工具がタンダステン不足により値上げや欠品するものが出てきて、再研磨を活用する動きが出てきたと想定され、3月は受注が増え少し上向きとなりました。1月、2月は大した動きはなく、四半期を通じては横ばいとなりました。売上高は239,598千円（前年同期比0.4%増）となりました。

この結果、当セグメントの第3四半期累計期間の売上高は358,443千円（前年同期比2.9%増）、セグメント利益は82,682千円（前年同期は2,689千円の利益）となりました。

自動旋盤用カム部門では、現存するカム式自動旋盤で加工する量産部品加工が一定量あり、当社の受注は増加しました。

この結果、当セグメントの第3四半期累計期間の売上高は11,510千円（前年同期比10.8%増）、セグメント損失は1,426千円（前年同期は3,490千円の損失）となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,196,847千円（前年同期比1.3%増）、営業利益は120,063千円（前年同期比165.0%増）、経常利益は152,512千円（前年同期比124.5%増）、四半期純利益は104,653千円（前年同期比144.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は、4,561,600千円（前事業年度末は5,347,399千円）となり785,798千円の減少となりました。これは、前払費用が10,155千円増加しましたが、現金及び預金が680,124千円、未収還付法人税等が45,911千円、受取手形及び売掛金が27,237千円、仕掛品が22,247千円、その他が12,683千円、原材料が6,639千円減少したこと等によるものであります。

また、当第3四半期会計期間末における固定資産の残高は、3,313,158千円（前事業年度末は2,711,190千円）となり601,967千円の増加となりました。これは、繰延税金資産が63,067千円、無形固定資産が8,511千円減少しましたが、投資有価証券が633,468千円、建物及び構築物が12,998千円、建設仮勘定が12,463千円、機械装置及び運搬具が8,494千円、長期前払費用が6,463千円増加したこと等によるものであります。

この結果、当第3四半期会計期間末における総資産は、7,874,758千円（前事業年度末は8,058,590千円）となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は、191,887千円（前事業年度末は107,774千円）となり84,112千円の増加となりました。これは、未払金が38,838千円、未払法人税等が27,829千円、その他が7,786千円、役員賞与引当金が6,070千円、買掛金が3,588千円増加したことによるものであります。

また、当第3四半期会計期間末における固定負債の残高は、470,836千円（前事業年度末は465,469千円）となり5,367千円の増加となりました。これは、長期末払金が1,200千円、その他が678千円減少しましたが、退職給付引当金が7,245千円増加したことによるものであります。

この結果、当第3四半期会計期間末における負債合計は、662,723千円（前事業年度末は573,243千円）となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、7,212,035千円（前事業年度末は7,485,347千円）となり273,311千円の減少となりました。これは、その他有価証券評価差額金が92,093千円、資本剰余金が19,803千円、自己株式の減少が12,160千円ありましたが、利益剰余金が397,369千円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の見通しにつきましては、世界情勢が大きく変化しており、今後の状況を考慮して業績予想を精査しているところであります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,676,064	3,995,940
受取手形及び売掛金	277,965	250,727
製品	2,864	1,633
原材料	43,552	36,912
仕掛品	272,876	250,628
前払費用	3,540	13,695
未収還付法人税等	45,911	—
その他	25,073	12,389
貸倒引当金	△448	△325
流動資産合計	5,347,399	4,561,600
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	195,501	208,500
機械装置及び運搬具(純額)	266,787	275,282
建設仮勘定	—	12,463
土地	333,534	333,534
その他(純額)	6,185	5,907
有形固定資産合計	802,009	835,688
無形固定資産	50,728	42,216
投資その他の資産		
投資有価証券	1,560,889	2,194,358
破産更生債権等	457	552
長期前払費用	2,405	8,869
繰延税金資産	295,055	231,988
その他	101	36
貸倒引当金	△457	△552
投資その他の資産合計	1,858,452	2,435,252
固定資産合計	2,711,190	3,313,158
資産合計	8,058,590	7,874,758
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,069	21,657
未払金	60,331	99,170
未払法人税等	—	27,829
役員賞与引当金	—	6,070
その他	29,373	37,159
流動負債合計	107,774	191,887
固定負債		
長期末払金	92,370	91,169
退職給付引当金	372,004	379,249
その他	1,095	416
固定負債合計	465,469	470,836
負債合計	573,243	662,723

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	365,296	385,099
利益剰余金	6,812,323	6,414,954
自己株式	△189,075	△176,914
株主資本合計	7,281,044	6,915,639
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	204,302	296,396
評価・換算差額等合計	204,302	296,396
純資産合計	7,485,347	7,212,035
負債純資産合計	8,058,590	7,874,758

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2024年7月1日 至2025年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自2025年7月1日 至2026年3月31日)
売上高	1,181,513	1,196,847
売上原価	882,294	810,183
売上総利益	299,218	386,663
販売費及び一般管理費	253,905	266,599
営業利益	45,313	120,063
営業外収益		
受取利息	282	7,678
有価証券利息	11,154	14,198
受取配当金	5,999	7,961
売電収入	596	519
作業くず売却益	1,043	721
その他	4,373	1,370
営業外収益合計	23,450	32,449
営業外費用		
株式報酬費用消滅損	821	—
営業外費用合計	821	—
経常利益	67,942	152,512
特別利益		
固定資産売却益	140	—
特別利益合計	140	—
特別損失		
固定資産除却損	0	19
特別損失合計	0	19
税引前四半期純利益	68,083	152,493
法人税、住民税及び事業税	1,445	26,148
法人税等調整額	23,896	21,692
法人税等合計	25,341	47,840
四半期純利益	42,742	104,653

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額(注) 2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	822,790	348,332	10,390	1,181,513	—	1,181,513
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	822,790	348,332	10,390	1,181,513	—	1,181,513
セグメント利益又は損失(△)	300,020	2,689	△3,490	299,218	△253,905	45,313

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上 額(注) 2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	826,893	358,443	11,510	1,196,847	—	1,196,847
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	826,893	358,443	11,510	1,196,847	—	1,196,847
セグメント利益又は損失(△)	305,407	82,682	△1,426	386,663	△266,599	120,063

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	131,199千円	78,122千円

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期累計期間(自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	コレット チャック部門	切削工具部門			自動旋盤用 カム部門	
		別注切削工具の 製作・再研磨	市販切削工具の 再研磨	小計		
工具製作	822,790	109,779	—	109,779	10,390	942,960
その他	—	—	238,552	238,552	—	238,552
顧客との契約から生じる 収益	822,790	109,779	238,552	348,332	10,390	1,181,513
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	822,790	109,779	238,552	348,332	10,390	1,181,513

当第3四半期累計期間(自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	コレット チャック部門	切削工具部門			自動旋盤用 カム部門	
		別注切削工具の 製作・再研磨	市販切削工具の 再研磨	小計		
工具製作	826,893	118,845	—	118,845	11,510	957,249
その他	—	—	239,598	239,598	—	239,598
顧客との契約から生じる 収益	826,893	118,845	239,598	358,443	11,510	1,196,847
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	826,893	118,845	239,598	358,443	11,510	1,196,847